

経営比較分析表（平成29年度決算）

兵庫県 宝塚市

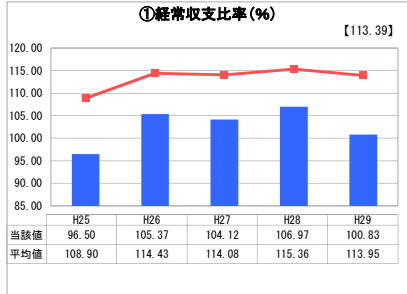
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A2	その他
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	66.85	99.98	2,376	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
234,662	101.80	2,305.13
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
234,620	42.97	5,460.09

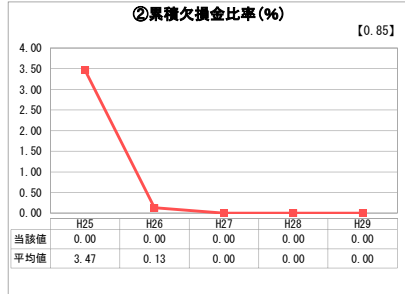
グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 平成29年度全国平均

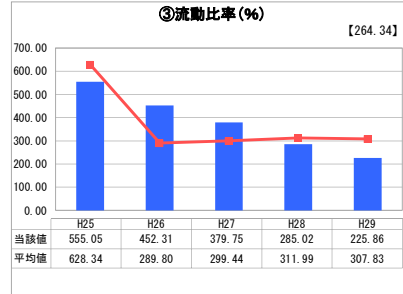
1. 経営の健全性・効率性



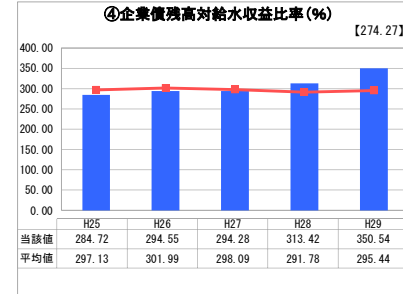
「経常損益」



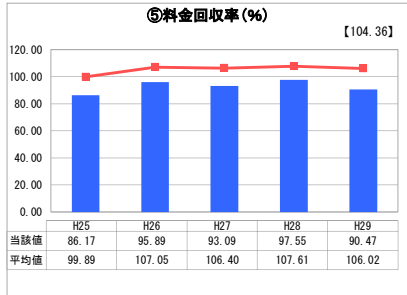
「累積欠損」



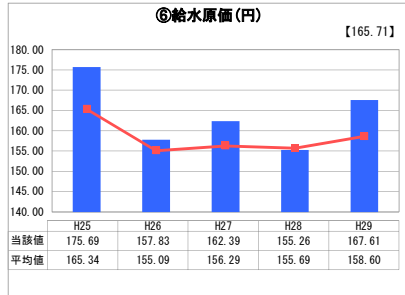
「支払能力」



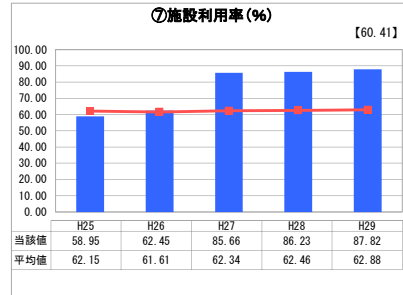
「債務残高」



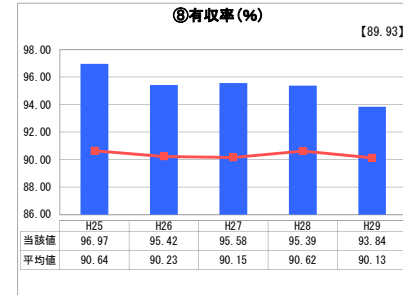
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

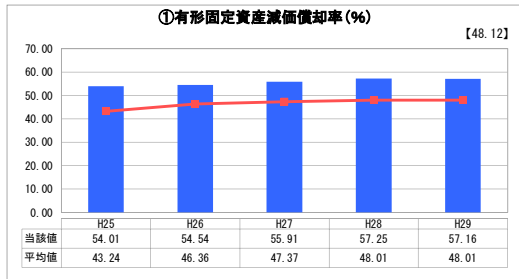


「施設の効率性」

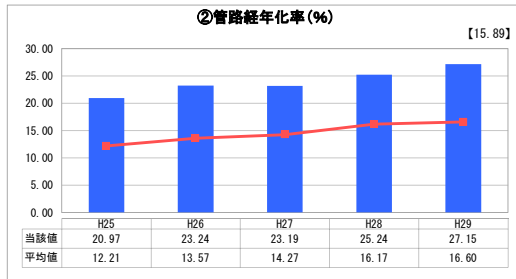


「供給した配水量の効率性」

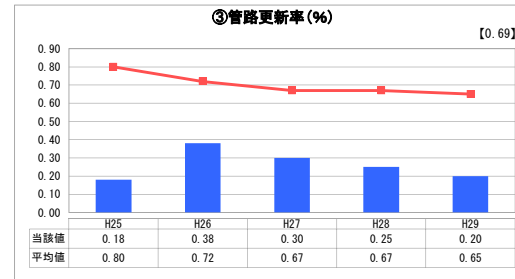
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

平成29年度の経営収支比率は、100%を超えているものの、受水費の増加により、前年度と比べて6.14ポイント減少し、100.83%となっています。平成29年度に阪神水道企業団からの受水を開始し、平成30年度に浄水場2カ所を閉鎖しますが、浄水施設の完全撤去には複数年を要するため、今後数年間は浄水場閉鎖の経費と受水費の両方が発生し、経営収支比率の低い状況が続くと見込まれます。この影響は、料金回収率や給水原価にも表れており、料金回収率は前年度と比べて7.08ポイント減少し、給水原価は12.35円増加しています。

また、阪神水道企業団からの受水開始のための管路整備に企業債を借り入れたため、企業債残高対給水収益比率が前年度と比べて37.12ポイント上昇しています。類似団体平均値と比べると55.1ポイント高い水準です。今後、管路更新を積極的に進めるのに資金が必要であり、財源を企業債に頼れば更に企業債残高対給水収益比率が悪化するため、企業債残高や借入利率を勘案して、将来を見据えた適正な借入額とする必要があります。

2. 老朽化の状況について

管路経年化率が類似団体平均値と比べて10.55ポイント高い27.15%となっている一方、管路更新率が類似団体平均値と比べて0.45ポイント低い0.20%となっており、類似団体と比べて、管路の経年化が進んでいるにもかかわらず更新が進んでいない現状が見て取れます。平成29年度は阪神水道企業団からの受水開始に係る工事を優先させたため管路更新率は低い数値となりましたが、平成30年度以降は、積極的に管路更新を行います。

全体総括

平成29年度は、阪神水道企業団からの受水を開始した年度であり、経営収支比率や料金回収率、給水原価、企業債残高対給水収益比率といった各指標が前年度と比べて悪化する結果となりました。今後は、更なる費用削減を実現する等して、各指標の数値の改善に努めます。また、管路更新については、「宝塚市水道ビジョン2025」や「宝塚市水道事業経営戦略」で目標とした1.25%の更新率となるように更新を進めます。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。